



Amazon DataZone

Overview

平井 健治

Solutions Architect
2023/12

自己紹介

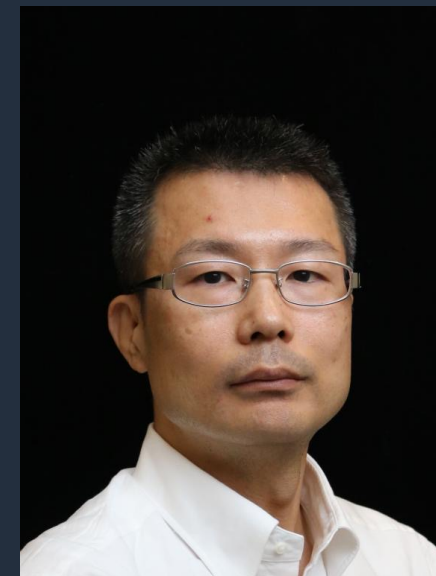
名前：平井 健治

所属：アマゾン ウェブ サービス ジャパン
ソリューションアーキテクト

流通小売業のお客様の技術支援を担当

経歴：データベース、データ活用に関するコンサルタント

好きなAWSサービス：Amazon S3、AWS Lambda、
Amazon Redshift、Amazon DataZone



本セミナーの対象者

Amazon DataZone をご利用予定の方、ご利用されている方

Amazon DataZone について学びたい方

データ活用を促進していくことに興味がある方

アジェンダ

1. データの活用に関する状況と課題
2. Amazon DataZone について
3. デモ
4. 料金体系
5. まとめ

データの活用に関する状況 と課題

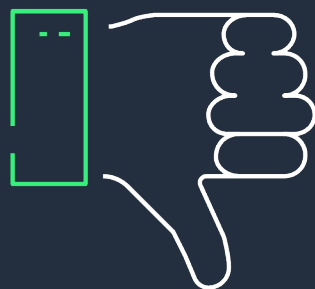
データの活用に関する状況



+20% revenue growth

データドリブンなビジネスは、そうでないビジネスに比べて**20%以上成長**する可能性が**8.5倍高い**

Statistic provided by [Forrester](#)



26% success rate

データを**戦略的資産**として扱うことに成功している企業は**26%のみ**

Statistic provided by [Harvard Business Review](#)

データドリブンは なぜ難しいか？



複数のアカウントやリージョンにまたがるデータの検索が困難



データアクセスの
リードタイム



ツールへのアクセスを
制限する技術的障壁



異なるユーザーが共同作業を行うための単一の環境がない



データガバナンスが
個々のツールに分散している

必要なものは、イノベーション + ガバナンス



アジリティ

実験
生産性
チームを強化
コラボレーション



ガバナンス

説明責任
一貫性
可視性
明確性

どちらかではなく - **両方**

Amazon DataZone

ビルトインのガバナンスにより組織の境界を越えてデータを活用する



組織の境界を越えたデータ
アクセスの管理



データとツールを共有して
関係者を結びつけ、
ビジネス・インサイトを促進



機械学習でデータの発見と
カタログ作成を自動化

Amazon DataZone のユースケース

1. ビジネスカタログの整備

- 既存のデータ基盤（データレイクやデータウェアハウス）にビジネスカタログと検索ポータルを付加し、セルフサービスでデータを登録、発見、活用しやすい環境を作りたい
- 既存データ基盤の課題解決、または機能強化

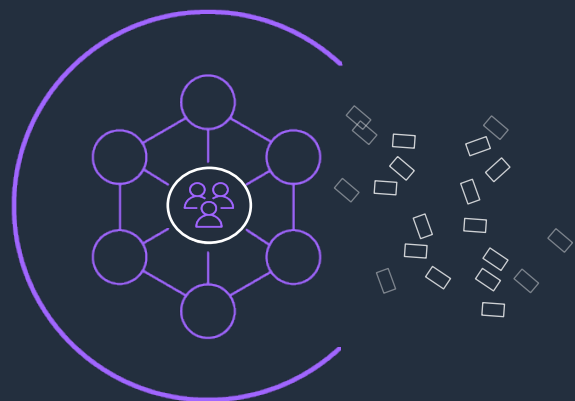
2. 組織のデータ民主化とガバナンス強化

- さまざまな部門のシステムに散在したデータ基盤のガバナンスを統合しながら、組織全体のデータの民主化とコラボレーションを促進できる環境を作りたい
- データメッシュアーキテクチャへの拡張

Amazon DataZone について

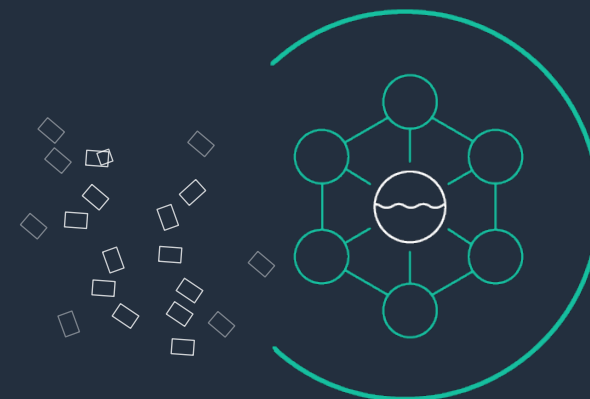
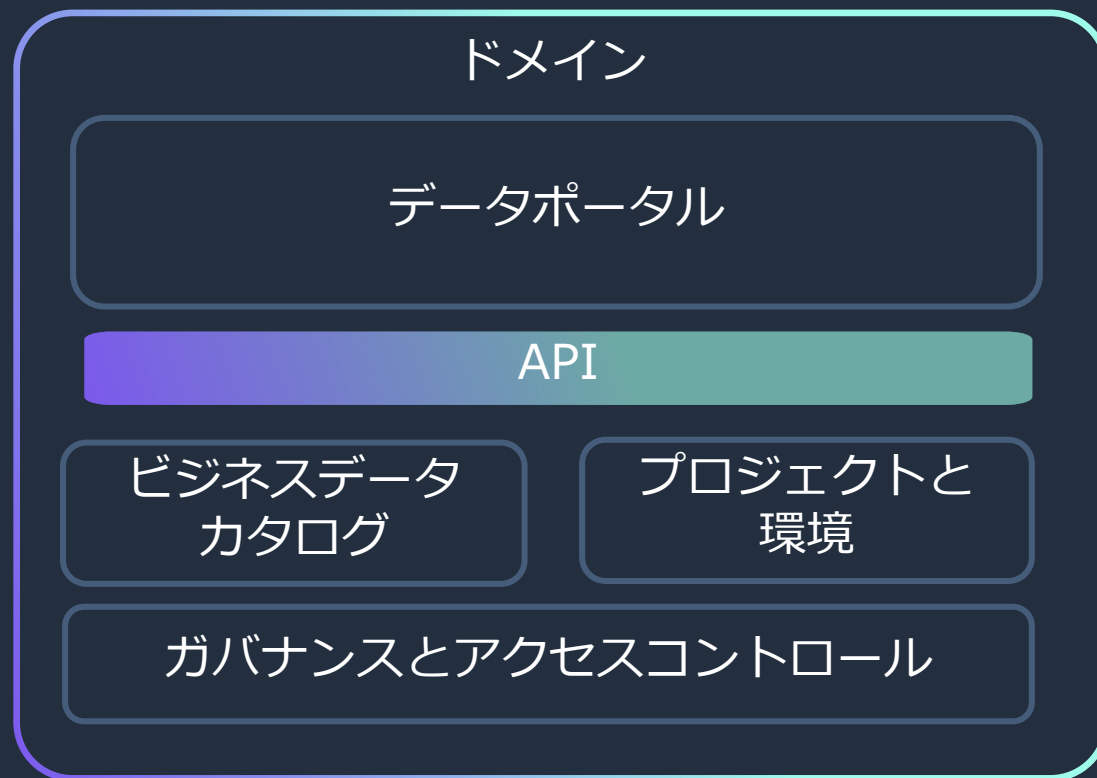
Amazon DataZone のコアコンポーネント

Amazon DataZone



データプロデューサー

様々なソースや、アカウント、リージョンからデータを取り込む



データコンシューマー

分析ツールを使用して、アクセス、コラボレーション、利用を簡単にする

ドメイン プロジェクトと環境

Amazon DataZone ドメイン

DATAZONEの一番大きな単位



分散型のチームや事業部門は、独自のドメインを作成することから始めることができる



アカウントをドメインに関連付けて、データ公開、サブスクリプション、インフラストラクチャの展開を可能にする

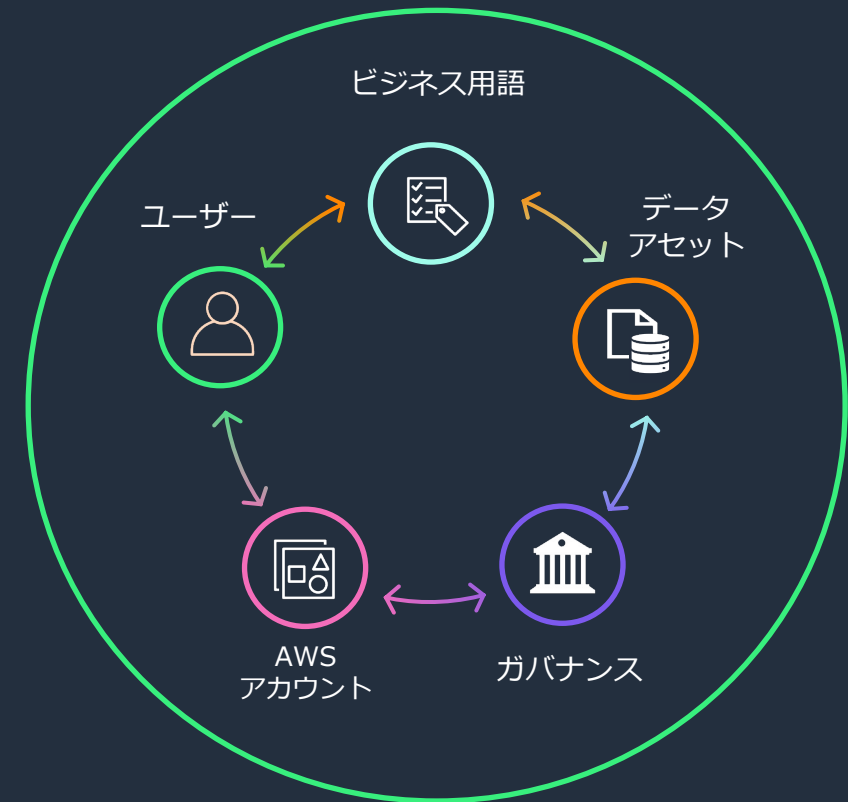


AWS IAM Identity Center経由でアイデンティティプロバイダーに接続し、SSO ユーザーとグループがドメインにアクセスできる



11リージョン
(東京リージョンを含む)

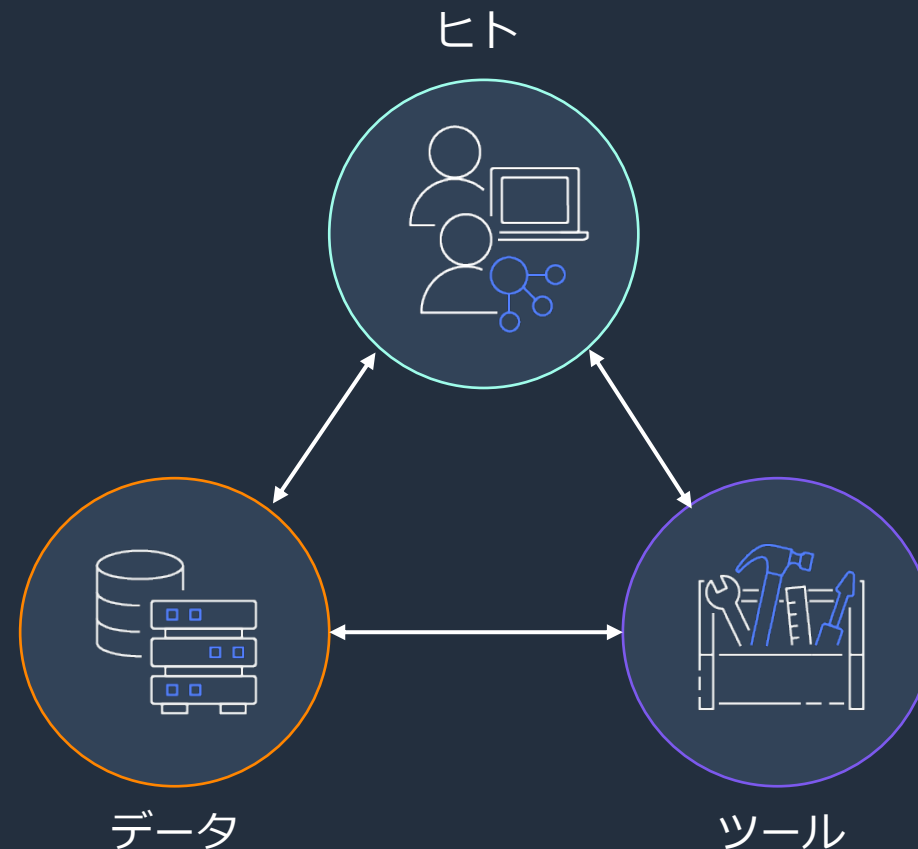
ドメイン



プロジェクト

コラボレーションの単位

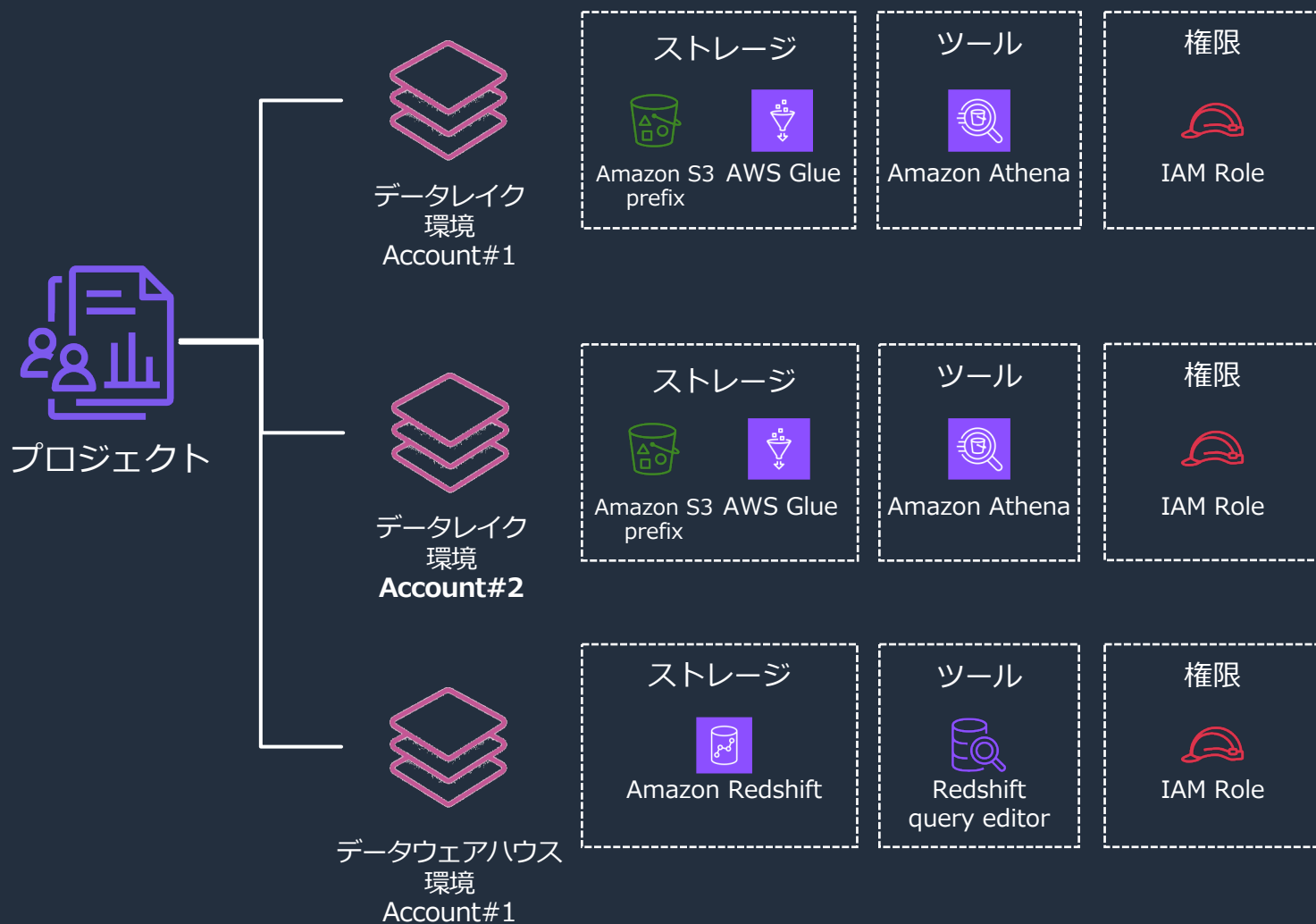
- 1 ビジネスユースケースに基づいてヒト、データ、ツールをグループ化することで、コラボレーションを可能にする
- 2 データの公開や、分析したいデータの利用、データの理解を深めるメタデータの付与といったデータ活用に関する活動が行われる
- 3 プロジェクトメンバーが共通の権限を共有しながらデータを操作するためのインフラストラクチャとツールを提供する



環境

プロジェクト内のインフラストラクチャを提供する


- プロジェクト内のツール、ストレージ、権限は環境を通してデプロイされる
- プロジェクトには、ユースケースに応じて複数の環境を含めることができる
- 環境にはデータソースを追加できる
- Amazon DataZone は 2 種類の環境をすぐにサポートする
 - データレイク環境
 - データウェアハウス環境



ブループリント

- ブループリントは、ストレージ、分析ツール、権限、ネットワーク、セキュリティなど、プロジェクトにデプロイされる環境情報が定義している
- 環境を作成すると、ブループリントの設定を使用してリソースがデプロイされる
- すぐに使用できるブループリントとして2つ用意されている

Default Data Lake Blueprint



Amazon S3 prefix AWS Glue databases Amazon Athena IAM Role

Default Data Warehouse Blueprint



Amazon Redshift Redshift query editor IAM Role

リージョン (2) 情報

リージョンを削除 **リージョンを追加**

リージョンを検索

名前	データレイク S3 の場所
<input type="radio"/> ap-northeast-1	s3://amazon-datazone-845494413178-ap-northeast-1-640636213
<input type="radio"/> eu-west-1	s3://amazon-datazone-845494413178-eu-west-1-383626855

←リージョンを追加できる

←環境を作成した際にデータレイクとして使用されるS3バケット

管理コンソール

Parameters

Key	Value type
<input type="radio"/> dataAccessSecretsArn	String
<input type="radio"/> clusterName	String
<input type="radio"/> dbName	String
<input type="radio"/> workgroupName	String
<input type="radio"/> schemaName	String
<input type="radio"/> managerSecretsArn	String

パラメータ：
環境作成時にRedshiftクラスタ or Redshit Serverlessワークグループ、DB名、Secret ManagerシークレットARNを指定する

Regions (1) Info

Find region

Name
<input type="radio"/> eu-west-1

リージョンを追加可能

プロジェクトでの作業方法：環境を作成するまで

What



ブループリント

ビジネスユースケースに合わせて、プロジェクト内に導入するインフラストラクチャとツールを定義する



環境プロフィール

インフラストラクチャとツールをどこ（アカウント、リージョン）に導入するかを定義する



環境

プロジェクト内に環境を作成して、必要なインフラストラクチャとツールをデプロイする

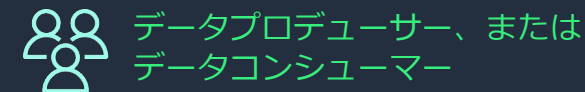
Who



管理者



管理者



データプロデューサー、またはデータコンシューマー

Where



Amazon DataZone
コンソール



Amazon DataZone
データポータル



Amazon DataZone
データポータル

ドメインの作成からプロジェクトを作成してコラボレーションするまでの流れ



ビジネスデータカタログ

ビジネスデータカタログ



アセット

Amazon DataZoneのアセットはテーブル、ダッシュボード、ビューなどデータオブジェクトのテクニカルメタデータとビジネスメタデータが該当する



ビジネス用語集

標準的なビジネス用語やデータ関連用語集を作成して、組織内の誰もが理解できるように定義を明確にする



メタデータフォーム

メタデータフォームを作成してアセットに適用することで、テクニカルメタデータとビジネスメタデータを一貫した方法で取り込むことができる

🔍 カタログ検索

全てのカタログエンティティのメタデータを検索

カタログ検索

適切なデータを素早く見つけて発見する

入力しながら検索

Search results for "Sales":

- Sales fact table**
Technical Name: sales_fact • Namespace: Sales • Asset Type: Redshift table
- EU Sales data**
Technical Name: eu_sales • Namespace: Sales • Asset Type: Glue Table
- US Sales data 2023**
Technical Name: us_sales • Namespace: Sales • Asset Type: Glue Table
- Store Sales data**
Technical Name: store_sales • Namespace: Sales.store • Asset Type: Glue Table
- Ecommerce sales**
Technical Name: ecom_sales • Namespace: Sales.ecom • Asset Type: Glue Table

VIEW ALL RESULTS FOR "SALES"

ファセット検索により、ビジネス用語集、アセットタイプ、リージョン、オーナーなどで絞り込める

Search results for "sales" with filters:

- APPLY FILTERS** (1) ALL CLEAR
- Namespaces**
- Glossary Terms** (1) CLEAR
 - Search terms
 - Confidential: 356
 - Public: 12
 - Sales: 11
 - Marketing: 11
- Asset Type**
 - Glue table: 1478
 - Redshift table: 356
 - Redshift view: 12
 - S3: 11
- Data Owner**
- Source Region**
- Source Account**

Showing results for "sales" (SORT BY: Relevance)

- Sales fact table**
Technical Name: sales_fact • Namespace: Sales • Asset Type: Redshift table
No description
Public Total sales
Metadata updated: Jun 23, 2023
- EU Sales data**
Technical Name: eu_sales • Namespace: Sales • Asset Type: Glue Table
No description
Public Total sales
Metadata updated: Jun 23, 2023
- US sales data 2023]**
Technical Name: us_sales • Namespace: Sales • Asset Type: Glue Table
No description
Public
Metadata updated: Jun 23, 2023
- Store Sales data**
Technical Name: stores_sales • Namespace: Sales.store • Asset Type: Glue Table
No description
Public Store sales
Metadata updated: Jun 23, 2023
- Ecommerce sales**
Technical Name: ecom_sales • Namespace: Sales.ecom • Asset Type: Glue Table
No description
Public Ecom sales
Metadata updated: Jun 23, 2023

アセットのメタデータ概要を含む検索結果

充実したビジネスメタデータ

メタデータにビジネス価値を付加し、ディスカバリーを強化する

ビジネスラベルと
データアセットの説明

データアセットに
付随するビジネス用語集

ソースから自動的に認識される
テクニカルメタデータ

追加のビジネス・メタデータ
を取得するための
メタデータ・フォームを添付

The screenshot displays the AWS Glue console interface for a specific data asset. The main content area is titled 'US Sales Data 2023' and provides a technical description: 'This dataset contains sales data for Activewear category in the US region during the year 2023. Each role in the dataset contains the aggregate sales amounts broken down by date, product, store, and location. This dataset can be joined with the dim_date, dim_product, dim_store, and dim_location tables.' Below this, there are sections for 'Glossary Terms' (Confidential, Region USA, activewear), 'Technical metadata' (a table of key-value pairs), 'Ownership' (listing technical steward and data owner), and 'Service level agreement' (specifying daily updates at 12am UTC). A right-hand sidebar titled 'ASSET DETAILS' shows the 'Published version' as V1.2.3, the 'Latest inventory version' as V1.2.3, and other details like 'Owner', 'Sales producer project', and 'Created' date (Jun 12, 2012).

Key	Value
Table Name	us_sales
Owner account ID	562074798336
Table source location	s3://datazone-proj-ga5/m/1t1v2i-16/89036/5213/sys/athena/tables/09d7c89b-0b55-4f71-81f9-80600b13e59f/
Classification	Confidential
Database	sales_db
Data Source	AWS Glue
Region	us-east-1
Table format tags	
Region	USA

アセットバージョン

カタログへのメタデータの追加

ビジネス用語集

地域
Asia
- Singapore
- India
- Japan
Americas
- USA
- Canada

ビジネス用語集はメタデータフォームで使用できる

メタデータフォーム

セールス識別子	
販売地域	地域
販売年	Integer

アセットオーナーシップ	
技術専門家	String
アセットオーナー	String

アセットに付与されたメタデータフォームにより、データプロデューサーはビジネスコンテキストを充実できる

アセット



例: Glue table, Redshift table

USのセールスデータ	
ビジネスラベル (名前)	USのセールスデータ
ビジネス内容 (説明)	USAのセールス
メタデータフォーム - セールス識別子 - アセットオーナーシップ	販売地域 = USA; 販売年 = 2021 技術専門家 = John@abc.com; アセットオーナー = Emily@abc.com
テクニカルメタデータ - 技術名 - ソースタイプ - AWS リージョン - AWS account Id - 場所	us_sales AWS Glue us-east-1 123456789012 S3://location
ビジネス用語集 - データ分類	Confidential
スキーマ - カラム名 - ビジネスラベル - 説明 - データタイプ - ビジネス用語集	Examples: [p_id, p_line] [product id, product line] [INT, FLOAT] 製品ライン

ビジネス用語集は、アセットのメタデータを充実させるために使用できる

データ分類
Public
Personal info
Confidential

製品ライン
Active Gear
- Sports
- Swim
- Golf
Active Wear
- Shirts
- Shoes

カタログ内のアセットの列に付与されたビジネス用語集

メタデータ生成の自動化：大規模なカタログキュレーション

手動キュレーション



キュレーションに時間がかかり、手作業による負荷が高いと、カタログのメタデータがほとんど不完全になることが多い

機械学習ベースの自動キュレーション



メタデータの自動生成により、より迅速で作業負担の少ないプロセスが可能になり、厳選されたカタログが作成される

メタデータ生成の自動化：大規模なカタログキュレーション

- AWS re:Invent 2023 にて、生成 AI (Amazon Bedrock) による機能強化を発表
 - データプロデューサー：ワンクリックでデータの説明・背景情報、カラムの概要を生成。重要なデータカラムを明示し、分析時に推奨される事項を追加できる
 - データコンシューマー：生成 AI によるレコメンデーションにより、データを容易に発見。データ活用がスムーズに取り組める
- バージニアとオレゴンのリージョンでプレビューを開始



メタデータ生成の自動化：一般提供されている機能

- ビジネスカタログとして、テーブル名とカラム名が自動生成される
- 承認や拒否、編集により素早く簡単にメタデータ作成ができる

メタデータの自動生成
緑色のアイコンは、データセットのメタデータ候補が自動的に生成されたことを示します。このアイコンをクリックすると、各提案を編集、承認、または拒否できます。また、アセットに関連して自動生成されたすべての提案に対して、「すべて承認」または「すべて拒否」を選択することもできます。詳細はこちら

Market Sales Table

説明なし

ビジネスメタデータ | スキーマ | 履歴

概要
Use AI recommendations for descriptions in Amazon DataZone to generate a summary for the table and all columns, potential use cases and a security assessment. Ensure the current metadata is accurate before generating a summary.

README
README セクションを追加
README は、ユーザーがこのページをより良く理解するのに役立ちます

用語集の用語 これは何ですか?
用語が見つかりません
このアセットに用語の注釈を付ける

メタデータフォーム これは何ですか?

アセットの詳細
データアセットには自動生成されたメタデータが含まれています
公開されたリビジョン
公開されたリビジョンはありません
最新のインベントリリビジョン
2

名前	データタイプ	説明	用語
Order Number	int	EMPTY	
Sales Quantity Sold	int	EMPTY	
Wholesale Cost	double	EMPTY	
List Price	double	EMPTY	
Selling Price	double	EMPTY	
Discount	double	EMPTY	
Shipping Mode	int	EMPTY	

このアセットのスキーマを表示または変更するには、このセクションを使用します。

メタデータの自動生成
緑色のアイコンは、データセットのメタデータ候補が自動的に生成されたことを示します。このアイコンをクリックすると、各提案を編集、承認、または拒否できます。また、アセットに関連して自動生成されたすべての提案に対して、「すべて承認」または「すべて拒否」を選択することもできます。詳細はこちら

フィルター

名前	データタイプ	説明	用語
Order Number	int	EMPTY	
Sales Quantity Sold	int	EMPTY	
Wholesale Cost	double	EMPTY	
List Price	double	EMPTY	
Selling Price	double	EMPTY	
Discount	double	EMPTY	
Shipping Mode	int	EMPTY	

メタデータ生成の自動化：生成 AI による機能強化

- 概要とカラムの説明が自動生成される
- 素早く簡単にビジネスメタデータが充実化され、データ活用をより進めることができる

メタデータの自動生成
緑色のアイコンは、データアセットのメタデータ候補が自動的に生成されたことを示します。このアイコンをクリックすると、各提案を編集、承認、または拒否できます。また、アセットに関連して自動生成されたすべての提案に対して、「すべて承認」または「すべて拒否」を選択することもできます。詳細はこちら

Market Sales Table
技術名: mkt_sls_table • アセットタイプ: amazon.datazone.GlueTableAssetType

ビジネスメタデータを確認

概要 拒否 編集 承認

生成されたメタデータを確認

このカタログページ番号は、カタログページにアイテムがリストアップされている場所を示します。注文の詳細（注文番号、配送モード、および顧客ID）、価格、販売価格、割引、および内部小売価格。顧客IDは請求された顧客と配送された顧客の両方を示します。販売数量は各ラインアイテムの倉庫IDが満たされた注文を示します。

Together, these columns provide a comprehensive view of catalog sales transactions, enabling analysis of product pricing, customer order behaviors, sales volumes and fulfillment. The table supports insights into profitability, customer order patterns, item popularity, and logistics monitoring. **Use Case** Based on the detailed schema and description provided, the mkt_sls_table contains rich transactional data on catalog sales that could be valuable for several business use cases and end users:

- Marketing and sales teams could utilize this table to analyze product pricing, identify best selling items, monitor customer order patterns and item popularity to optimize catalog layout, pricing and promotions. The sales, pricing and customer data provides insights to boost revenues.
- Product managers could study sales volumes and trends to inform decisions on inventory planning, production levels, supplier orders and new product development. Granular order data aids demand forecasting and inventory optimization.
- Finance teams may leverage the cost and pricing data to perform profitability analysis by product, region or channel. Data on discounts and volumes helps modeling for pricing optimization.
- Customer service could lookup order details like shipping mode, warehouse and billed customer ID to address any order inquiries. Customer IDs link to demographics for segmentation.
- Logistics professionals can analyze warehouse fulfillment volumes and shipping modes to identify process bottlenecks and optimize distribution networks.
- Executive leadership can track overall sales KPIs and drill down into product-level trends to monitor growth, market share and strategic initiatives.

In summary, the transactional data in mkt_sls_table enables critical sales, marketing, product, finance, customer service and supply chain operations. It would provide business value across consumer goods, retail, manufacturing and distribution sectors. The table supports data-driven insights for pricing, inventory, customer patterns, logistics and overall growth.

アセットの詳細

データアセットには自動生成されたメタデータが含まれています 詳細はこちら

公開されたリビジョン
公開されたリビジョンはありません
最新のイベントリビジョン
3

所有プロジェクト
SalesDataPublishingProject
サブスクリプションの承認
必須

最終更新者
SYSTEM
更新場所
2023年12月01日 午前10:50:24
作成者
SYSTEM

ビジネスメタデータ スキーマ 履歴

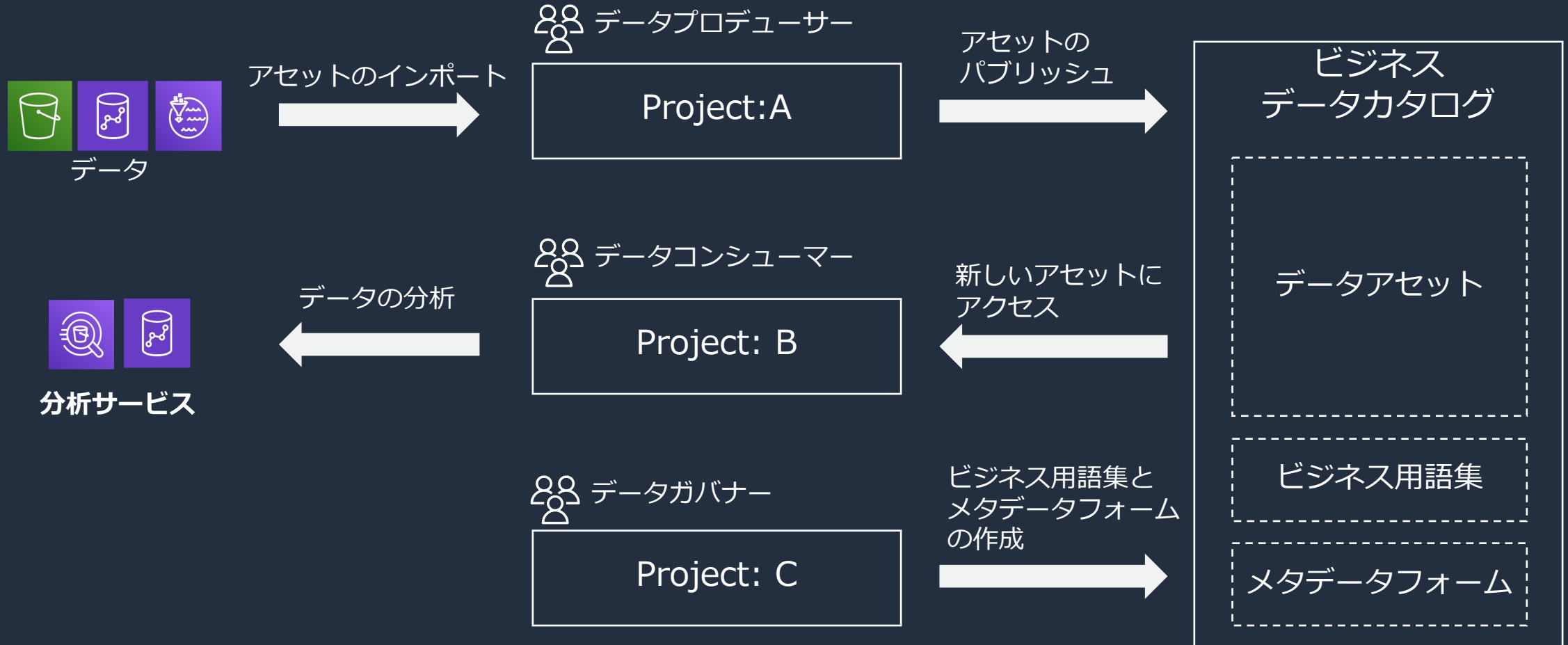
このアセットのスキーマを表示または変更するには、このセクションを使用します。

メタデータの自動生成
緑色のアイコンは、データアセットのメタデータ候補が自動的に生成されたことを示します。このアイコンをクリックすると、各提案を編集、承認、または拒否できます。また、アセットに関連して自動生成されたすべての提案に対して、「すべて承認」または「すべて拒否」を選択することもできます。詳細はこちら

フィルタ

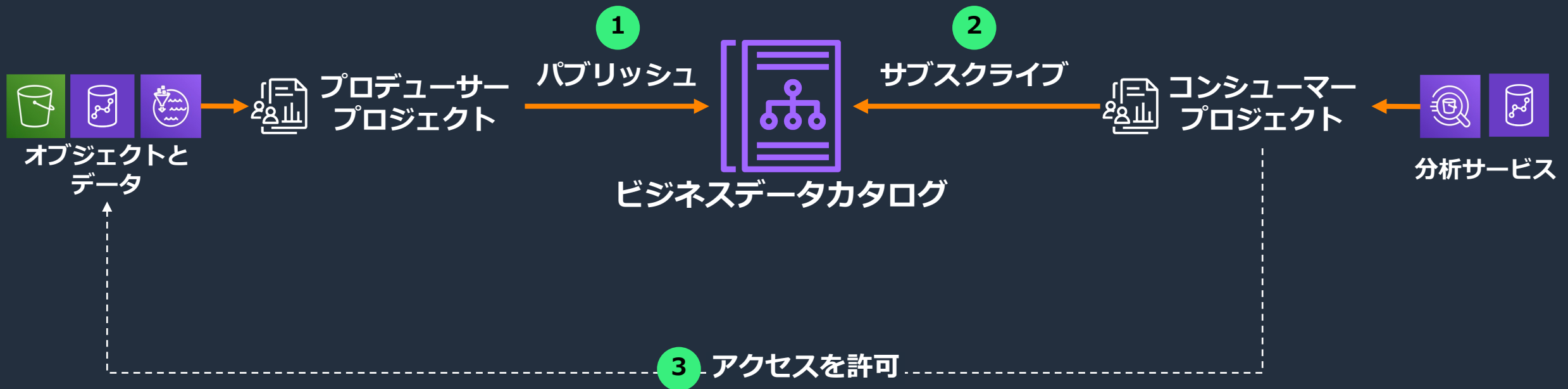
名前	データタイプ	説明	用語
Order Number ord_num	int	Order number for the sale EMPTY	
Sales Quantity Sold sales_qty_sld	int	Quantity sold for the order EMPTY	
Wholesale Cost wholesale_cost	double	Wholesale cost of the item EMPTY	
List Price lst_pr	double	List price of the item EMPTY	
Selling Price sel_pr	double	Selling price of the item for this order EMPTY	
Discount disnt	double	Discount percentage given on the item EMPTY	
Shipping Mode ship_mode	int	Shipping mode used to deliver the order EMPTY	

データガバナーによるビジネスメタデータの整備の例



ガバナンスとアクセスコン トロール

パブリッシュとサブスクライブのワークフロー



Amazon DataZone のパブリッシュコンセプト

データソースによる自動パブリッシュ

- データソースを作成して実行し、AWS Glue データカタログと Amazon Redshift からアセットとテクニカルメタデータを自動的に取得する
- データソースを定期的にスケジュールして、新しいアセットを取得したり、既存のアセットの変更を検出できる

アセット作成による手動パブリッシュ

- アセットを作成し、テクニカルメタデータとビジネスメタデータを手動で提供する
- データソースでサポートされていないアセットタイプは、すべて手動で作成する必要がある

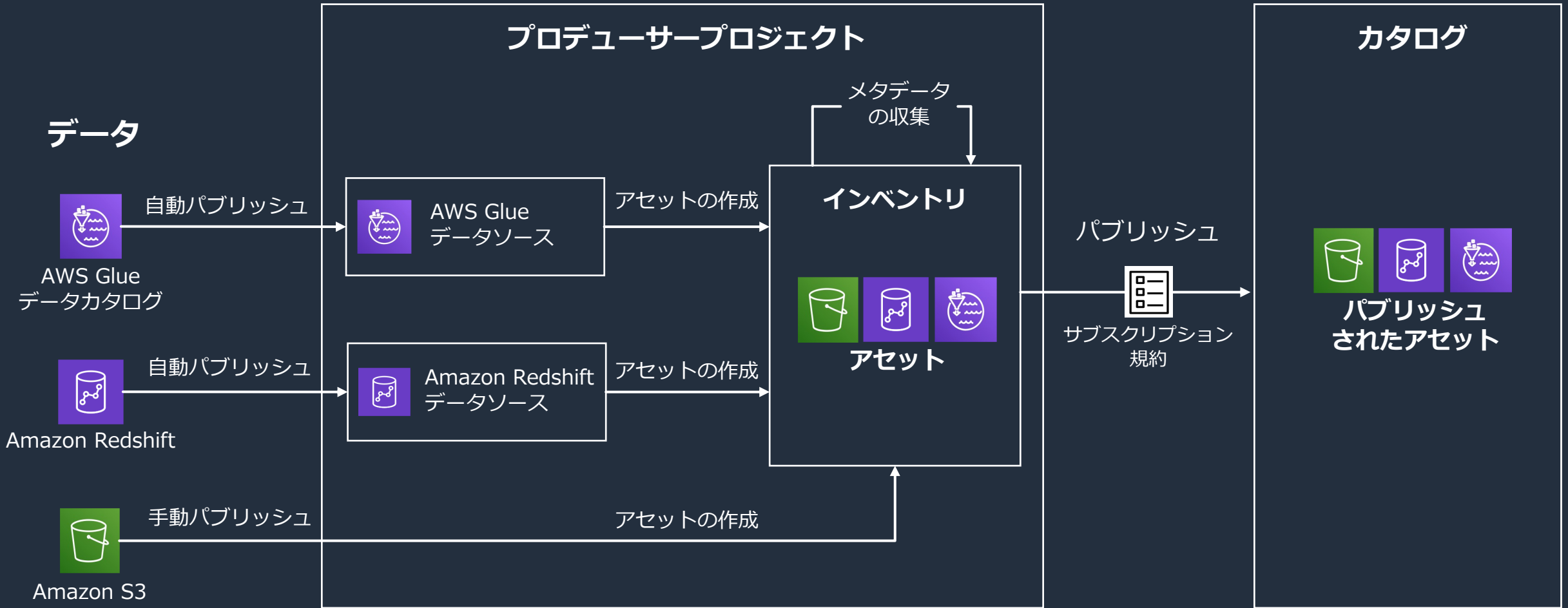
インベントリアセットとパブリッシュアセット

- インベントリアセットは、所有するプロジェクトメンバーにのみ表示され、アセットのメタデータを他の人に見られる前に充実させるためのスペースを提供する
- パブリッシュされたアセットはカタログに表示され、誰でも見つけることができる

サブスクリプション規約

- インベントリからカタログにアセットをパブリッシュするには、サブスクリプション条件をアセットに追加する必要がある
- サブスクリプション規約は、データへのアクセスに承認が必要かどうかを定義する

パブリッシュのフロー



Amazon DataZone のサブスクライブコンセプト

サブスクリプション

- サブスクリプションはアセットとプロジェクトの間で作成される
- サブスクリプションにより、プロジェクトはアセットを使用する権限を与えられる

サブスクリプションgrant

- サブスクリプションが承認されたら、アセットを環境に追加し、ソースシステムでgrantを作成する必要がある

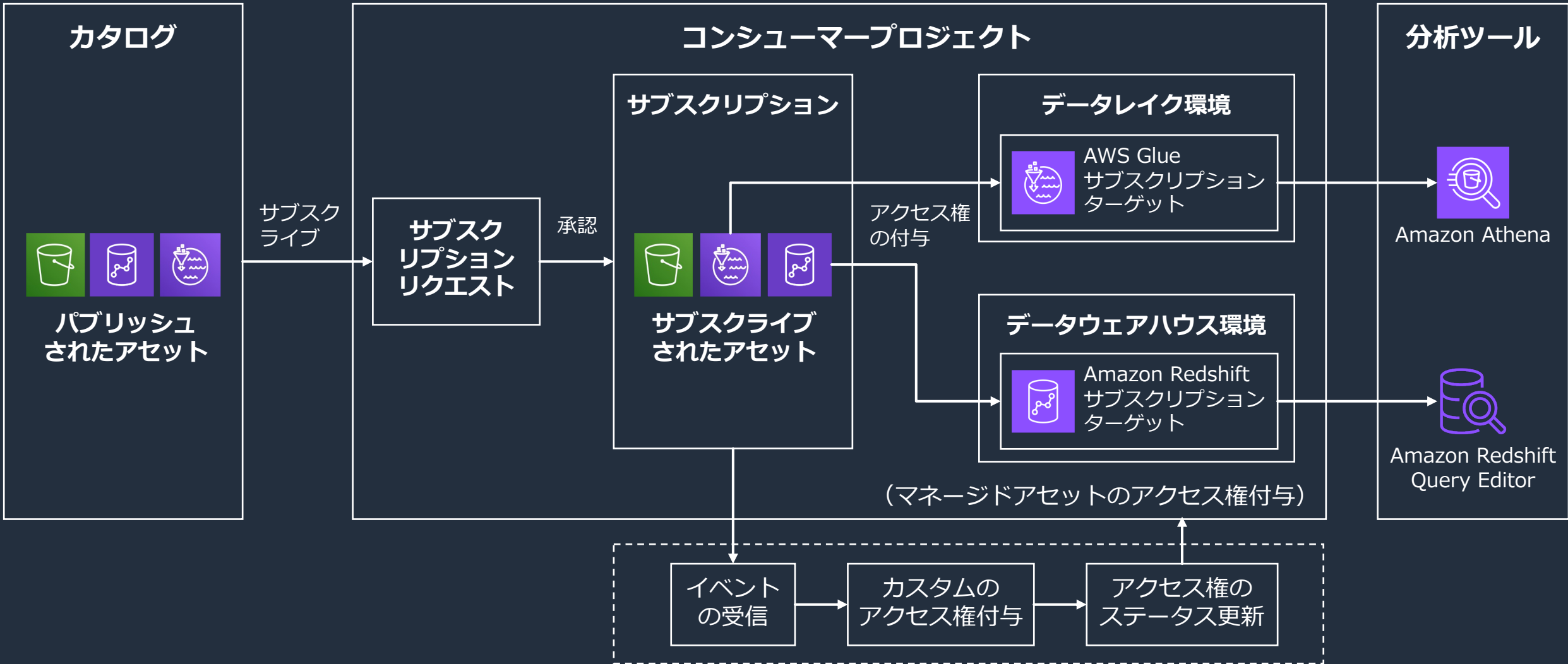
マネージドアセットと非マネージドアセット

- Amazon DataZone では、管理対象アセット (Amazon Redshift および AWS Lake Formation が有効な AWS Glue Table) に自動的にサブスクリプションを付与できる
- Amazon DataZone が自動的にサブスクリプションを付与できないその他のアセットは非マネージドアセットとなる

サブスクリプションターゲット

- サブスクリプションターゲットは、Amazon DataZone がサブスクリプションを付与できるようにするプロジェクト環境内のエンティティ
- サブスクリプションターゲットは IAM 権限を提供し、ターゲットデータベースの場所とgrantを作成するためのプリンシパルを保存する

サブスクライブのフロー



(非マネージドアセットのアクセス権付与) - Amazon EventBridge を用いて作り込みが必要
<https://docs.aws.amazon.com/datazone/latest/userguide/working-with-events-and-notifications.html>

管理対象アセットに対するアクセス権の付与

AWS Glue データカタログ

- Lake Formation の管理対象にアクセス権を付与できる（例：DynamoDB は対象外）
- LF-TBAC はサポートされない

<https://docs.aws.amazon.com/datazone/latest/userguide/grant-access-to-glue-asset.html>

Amazon Redshift

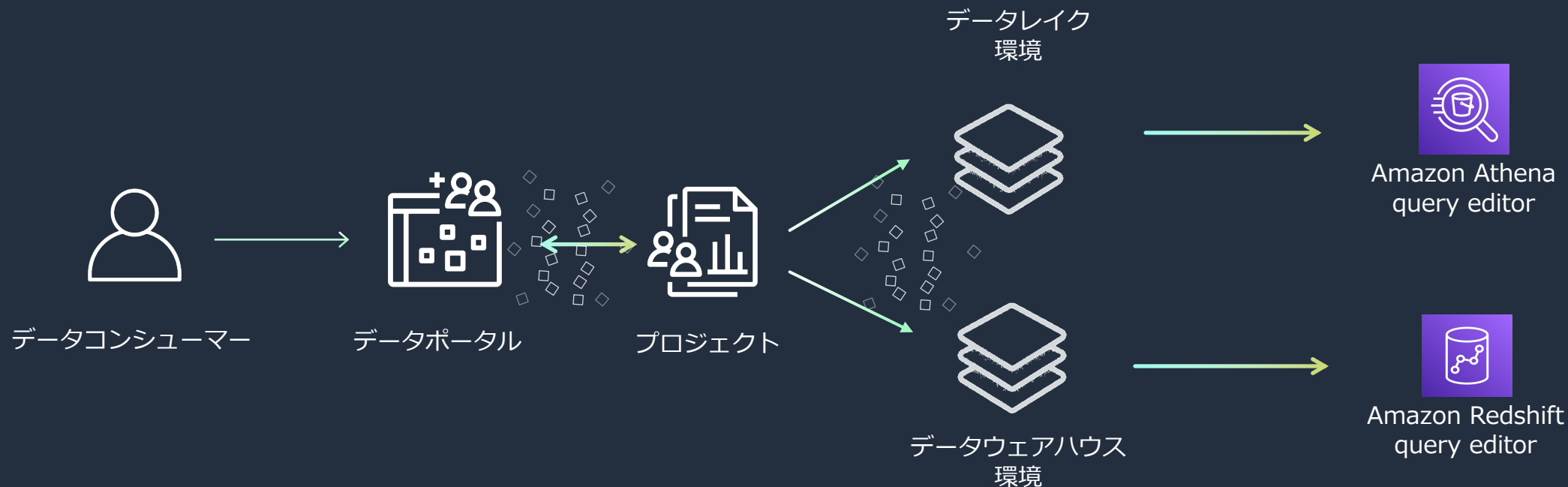
- アクセス権を付与する方法は下表の通り

#	パターン	アクセス権を付与する方法
a	同じクラスタ、同じデータベース	ソーステーブルに対して直接権限付与する
b	同じクラスタ、異なるデータベース	ターゲットデータベースにビューを作成して、ビューに対して権限付与する
c	同じアカウント、異なるデータベース	データ共有を作成し、ターゲットクラスタにビューを作成してビューに権限付与する
d	クロスアカウント	cと同じだが、クロスアカウントのデータ共有の認可に追加ステップが必要となる

<https://docs.aws.amazon.com/datazone/latest/userguide/grant-access-to-redshift-asset.html>

ディープリンクを使用してデータをクエリする

プロジェクトのデータ権限を持ち運ぶ



ユーザーが Amazon DataZone データポータルに移動し、プロジェクトを選択する

プロジェクト内の環境を開き、“Query data Amazon Athena” または “Query data Amazon Redshift” を選択する

ユーザーは Amazon Athena または Redshift クエリエディタにフェデレーションされ、データをクエリする

Amazon DataZone によるガバナンスの特徴



End to End の ワークフロー

データの検索、アクセス、
ツールでの利用



スケーラブルな ガバナンス

ガバナンスを維持しながら、
組織全体のスケーリングが
可能

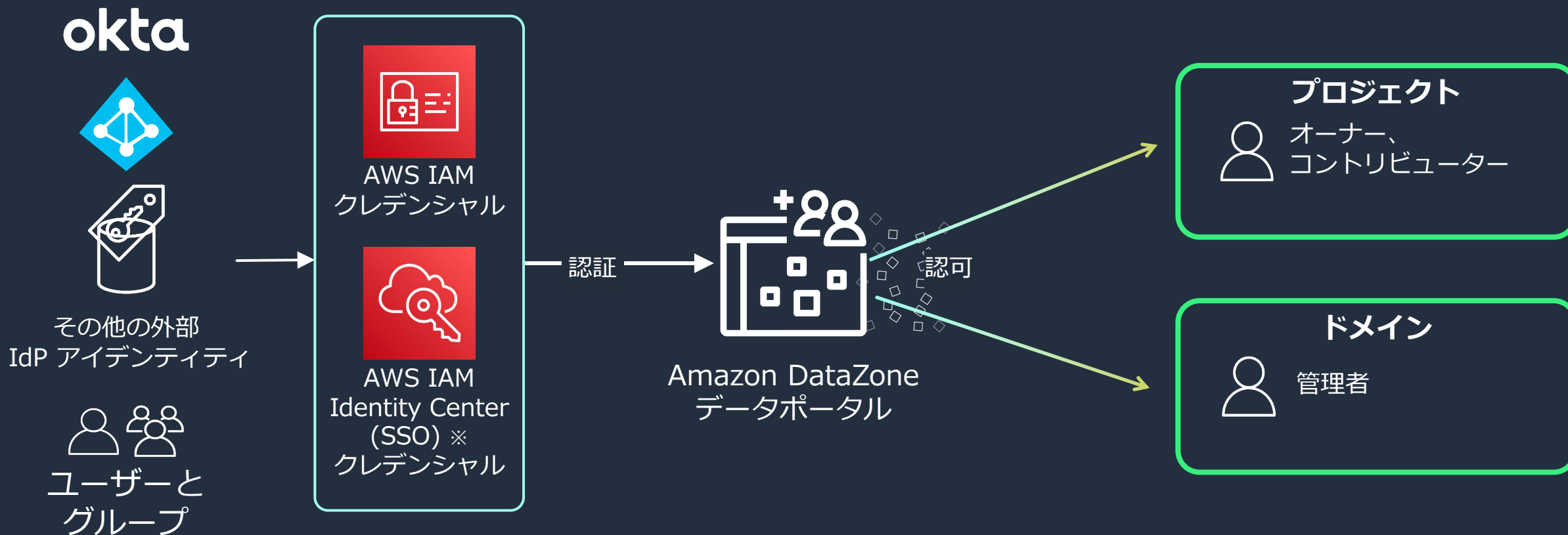


AWS サービスとの 統合

様々なAWSサービスと
連携

認証と認可

ログイン – 認証と認可



※ : AWS IAM Identity Center(SSO) の有効化にあたっての注意点

- Amazon DataZone ドメインと同じリージョンで有効化する必要がある
- ユーザーやグループのアサインを選択する必要がある (後で変更することはできない)
 - 割り当ては不要です : すべてのユーザとグループがアクセスできる (暗黙的)
 - 割り当ては必須です : 指定されたユーザやグループがアクセスできる (明示的)

<https://docs.aws.amazon.com/datazone/latest/userguide/enable-IAM-identity-center-for-datazone.html>

ユーザ管理

SSOユーザ、グループ ※下画面は管理コンソール

関連付けられているアカウント | プループリント | **ユーザー管理** | 作成した環境

ユーザー管理 (3)

検索: ユーザーを名前で検索 | SSO ユーザー

名前	ステータス
<input type="checkbox"/> marketing01	アクティブ化
<input type="checkbox"/> sales02	割り当て済み
<input checked="" type="checkbox"/> sales01	アクティブ化

アクション ▲ 追加 ▼

- 割り当て
- 割り当て解除
- アクティブ化
- 非アクティブ化

割り当て済み : ドメインやプロジェクトに追加された
アクティブ化 : Amazon DataZone にアクセスされた
非アクティブ化 : Amazon DataZone にアクセスしない
(再アクティブ化できる)

IAMユーザ ※下画面はデータポータル

メンバーをプロジェクトに追加

AWS IAM アイデンティティセンターから SSO ユーザー/グループを選択するか、IAM (AWS Identity and Access Management) ユーザーを選択してプロジェクトに追加します。

DataZone に既に少なくとも 1 回アクセスした IAM ユーザーのみを追加できます。

名前: IAM | ユーザータイプ: IAM ユーザー

1 人のユーザーが選択されました

dz-user01

割り当てられたプロジェクトロール: コントリビューター

キャンセル | **メンバーを追加**

- Amazon DataZone に1回アクセスされた IAM ユーザをプロジェクトに追加できる
- 非アクティブ化は SSO ユーザ、グループと同じ

プロフィールを非アクティブ化

1 プロファイルを非アクティブ化してもよろしいですか?

一度非アクティブ化すると、これらのプロフィールは Amazon DataZone にアクセスできなくなります。

キャンセル | **非アクティブ化**

メンバーとプロジェクトリソースの操作権限マトリックス

		プロジェクトメンバーのロール		
		オーナー	コントリビューター	非メンバ *1
プロジェクト リソース の	データアセット (パブリッシュアセット)	CRUD	CRUD	R
	データアセット (インベントリアセット)	CRUD	CRUD	-
	メタデータフォーム	CRUD	CRUD	R *2
	用語集、用語	CRUD	CRUD	R *2
	データソース	CRUD	CRUD	-
	環境	CRUD	CRUD	-
	環境プロファイル	CRUD	CRUD	R *2
	メンバー	CRD *3	R	R

*1 : プロジェクトを作成することができる (作成したプロジェクトにおいて、自身はオーナーとなる)

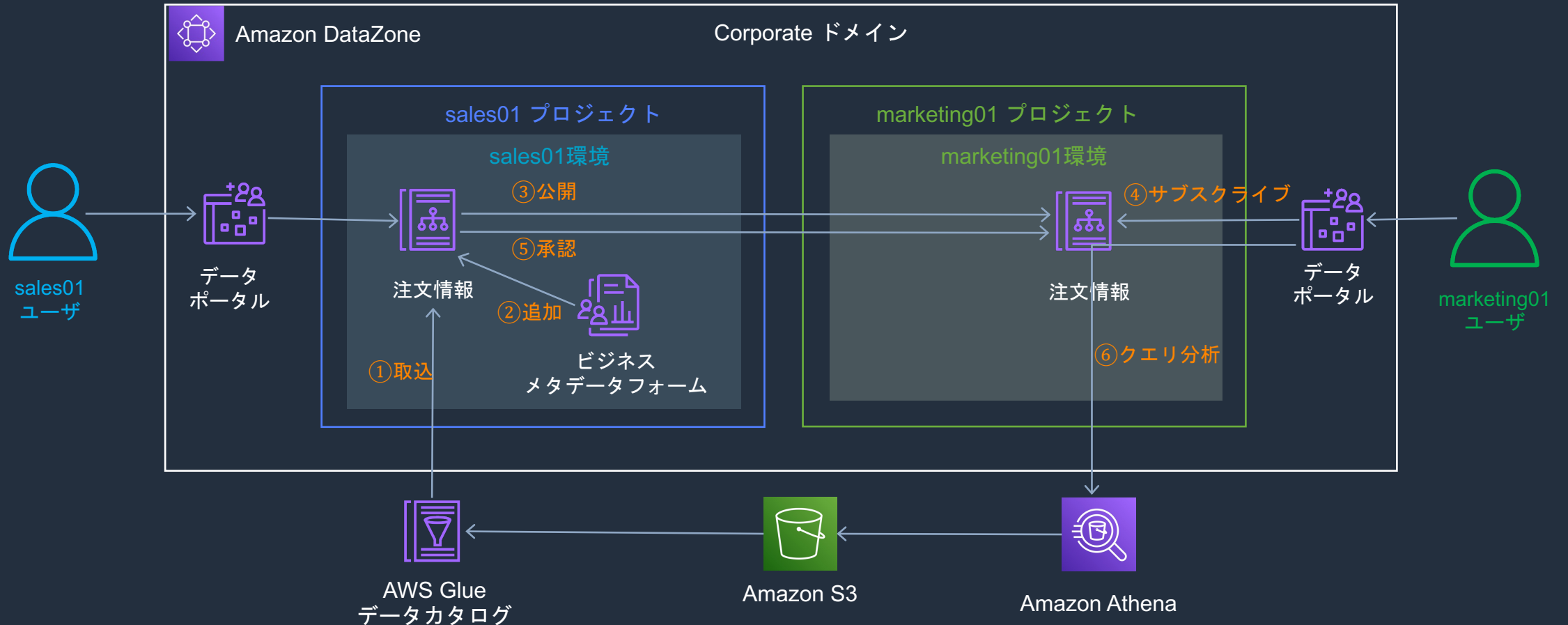
*2 : 他のプロジェクトでリソースを作成、更新する際に使用することができる (R=ドメインでリソースは共有される)

*3 : Delete→Create により Update 相当はできる

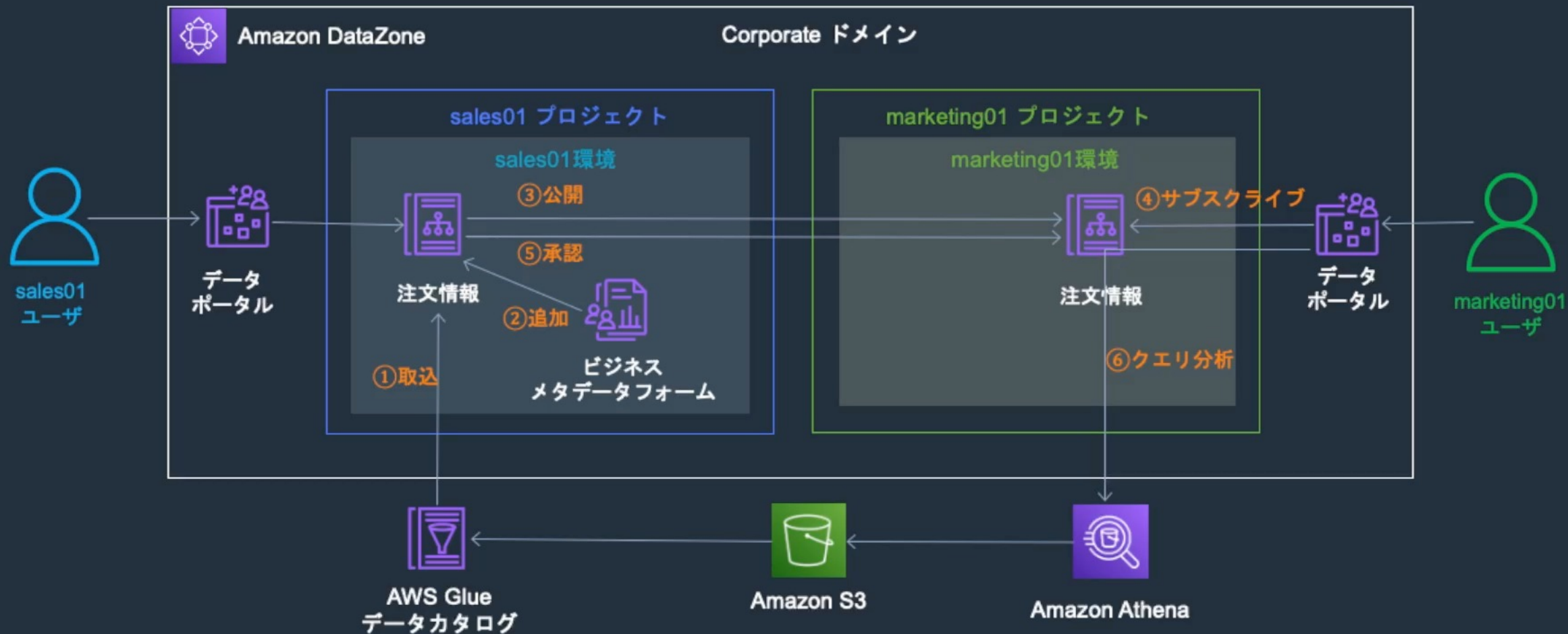
参考 : <https://docs.aws.amazon.com/datazone/latest/userguide/datazone-concepts.html>

デモ

営業部門のデータをマーケティング部門が活用する



営業部門のデータをマーケティング部門が活用する



料金体系

Pricing

<https://aws.amazon.com/datazone/pricing>

無料トライアル

- 使用開始から最初の 3 ヶ月間、50 ユーザーまで無料で使用トライアルが可能
(ユーザーあたり 20 MB のメタデータストレージ、4,000 リクエスト、および 0.2 コンピューティングユニットの利用が含まれており、これを超える場合は標準料金がかかる)

標準料金

ユーザー	サブスクリプションは、Amazon DataZone に初めてアクセスした時（例：データポータルログイン、API 実行）から開始され、月の途中から開始の場合は日割りとなる。 First 500 users (1-500) : \$9.00 per user per month Next 500 users (501-1,000) : \$8.10 per user per month Additional users (1,001 +) : \$7.20 per user per month 非アクティブ化すると、最後の月の料金が全額請求される。
メタデータストレージ	\$0.417 per GB
リクエスト	\$10 per 100,000 requests
コンピューート	\$1.776 per compute unit
その他	Amazon DataZone を利用するにあたって付随して利用されるサービス利用料 (AWS Glue, Amazon Athena, Amazon Redshift, AWS KMSなど)

まとめ

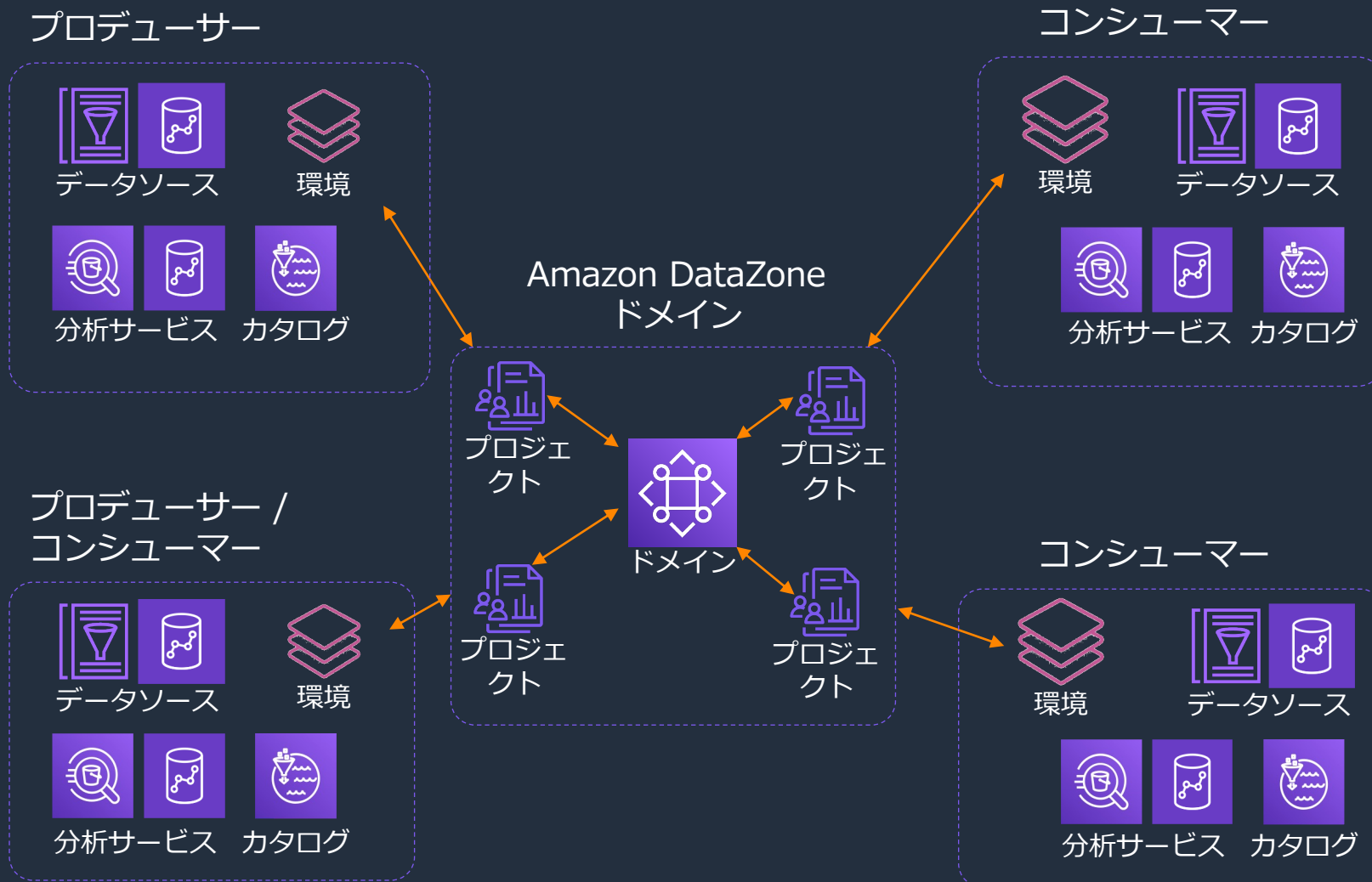
Amazon DataZone はデータを完全に民主化するために スケールしてボトルネックを取り除く

分散型オーナーシップ

フェデレートされた
ガバナンス

ピアツーピアの
データ共有

セルフサービス
インフラストラクチャ



Amazon DataZone によりイノベーションを加速する



適切なデータの検索、
アクセス、共有



データを保護して
セキュアに保つ



適切な監査と管理を
可能にする

イノベーションとガバナンスの両立

AWS Black Belt Online Seminar とは

- 「サービス別」「ソリューション別」「業種別」などのテーマに分け、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社が提供するオンラインセミナーシリーズです
- AWS の技術担当者が、AWS の各サービスやソリューションについてテーマごとに動画を公開します
- 以下の URL より、過去のセミナー含めた資料などをダウンロードすることができます
- <https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/aws-jp-webinar-service-cut/>
- <https://www.youtube.com/playlist?list=PLzWGOASvSx6FIwIC2X1nObr1KcMCBBlqY>



ご感想は X (Twitter) へ！ハッシュタグは以下をご利用ください
#awsblackbelt

内容についての注意点

- 本資料では資料作成時点のサービス内容および価格についてご説明しています。AWS のサービスは常にアップデートを続けているため、最新の情報は AWS 公式ウェブサイト (<https://aws.amazon.com/>) にてご確認ください
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます
- 価格は税抜表記となっております。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます
- 技術的な内容に関しましては、有料の [AWS サポート窓口](#)へお問い合わせください
- 料金面でのお問い合わせに関しましては、[カスタマーサポート窓口](#)へお問い合わせください (マネジメントコンソールへのログインが必要です)



Thank you!